

『1 分間の暗闇のなかで気づく。』

10月10日（月）から4泊5日の日程で、高2の生徒とともに沖縄修学旅行に行ってきました。私は3年ぶりでした。①平和学習、②亜熱帯の気候・自然体験、③琉球文化を学ぶを3つの柱とした旅行ですが、毎年アンケートをとると、行った生徒達の評価・満足度がとても高いようです。今年もそうなることを確信できました。

例年のように2日目にガマ体験をしました。1945年の沖縄戦で米軍の侵攻により逃げ場のなくなった日本軍と沖縄の住民は南下し、ガマとよばれる洞穴に避難していくつもの悲劇がおきました。そのガマに入り、当時の人々の生活を想像し、追体験するものです。懐中電灯で照らし、前日の雨でぬかるみ滑る足下に気をつけながら奥まで降りました。クラス全員が降りたところで、ガイドの方から当時の様子を伺いました。その後、その方の指示で懐中電灯を消しました。目をあけても、目をつぶっても全く真っ暗で、何も見えませんでした。この様な中で、爆弾や銃弾に怯えながらの生活は本当に辛いものがあったと思います。生徒達も感じるものがたくさんあったようです。1分後また懐中電灯をつけました。たった1分間にもかかわらず、その闇がとても長く感じました。

私達には光が必要であること、光の大切さを実感しました。しかし同時に、ふだん光に照らされいつも周りのことが簡単に目に入りこんでいるが故に、それらに気をとられ、一寸先は闇であることに気づかないで生活できてしまっているところがあるかもしれません。未来がどうなるのか？明日も今日と同じように続くかどうか、実は全くわからない闇なのです。そのような状況に実は私達はおかれているのだということに気づいた時に、私達は何をよりどころに生きることができるのでしょうか？そんなことも考えさせられた1分間の闇でした。



ガマに入るところ



ガマの中でのお話し

2011年10月15日